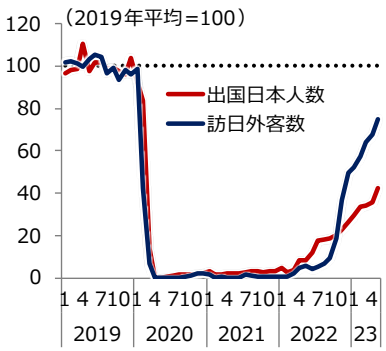
日本

訪日外客統計（2023年5月）

訪日外客数は順調に回復する一方、日本人の海外旅行は回復遅れ

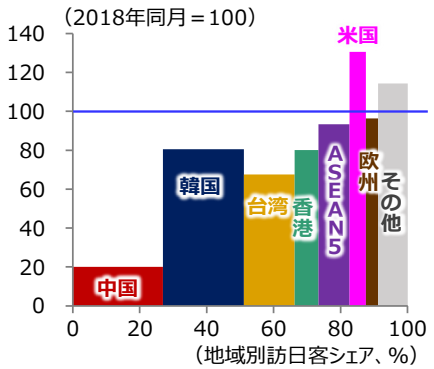
政策・経済センター
田中嵩大
03-6858-2717

1 訪日外客数・出国日本人数



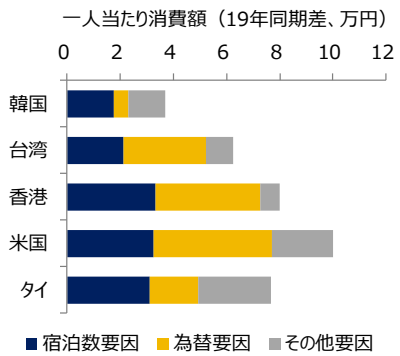
注：当社試算の季節調整値。
出所：日本政府観光局「訪日外客統計」より三菱総合研究所作成

2 地域別訪日外客数（23年5月）



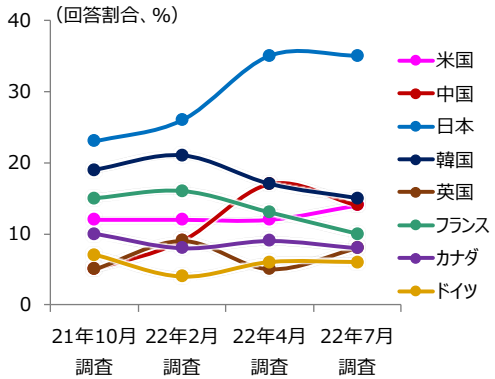
注：欧州は英・独・仏・伊・西の5カ国。
出所：日本政府観光局「訪日外客統計」より三菱総合研究所作成

3 訪日客一人当たり消費額の変化（23年1-3月期）



注：23年1-3月期の訪日客数が多い上位5カ国。
出所：観光庁「訪日外国人消費動向調査」、Bloombergより三菱総合研究所作成

4 「二度と観光旅行しない」と回答した割合



注：旅行には国内・海外旅行の両方を含む。
出所：Morning Consult “The State of Travel & Hospitality”より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 23年5月の訪日外客数は約198万人（当社試算季調値）と前月から増加を続け、19年平均の75%程度まで回復した（図表１）。
- 訪日外客数を地域別にみると、中国からの訪日客の戻りは引き続き鈍いものの、米国を筆頭に、欧州やASEANからの回復が先行している（図表2）。
- 観光庁「訪日外国人消費動向調査（23年1-3月期）」を見ると、「観光・レジャー」目的の訪日が3分2程度を占めるが、「留学」「その他ビジネス」目的の割合が19年同期と比較して増加しており、観光以外の訪日も回復傾向にある。

基調判断と今後の流れ

- 訪日外客数は、回復基調が続いている。先行きについても、円安傾向が続く中で、シェアの大きい韓国、台湾、香港を中心に、緩やかな回復が続くとみる。一方で、中国からの訪日客に関しては、団体旅行が解禁されるまでは、鈍い回復にとどまるだろう。
- 訪日客一人当たり消費額は、円安による購買力の増加や、宿泊日数の長期化によって、19年と比較して増加している（図表3）。訪日客数の回復ペース以上にインバウンド消費額（総額）は回復しているとみられる。
- インバウンドが順調に回復する一方で、出国日本人数は19年平均の40%程度と回復が遅れている。円安による渡航費用上昇の影響が大きいと見られるが、コロナ下での意識変化が一因となっている可能性もある。Morning Consult の調査では、円安が進展する以前から、日本人の旅行意欲は低く、旅行を「二度としない（never again）」と回答する割合は、主要国で最も高い（図表4）
- 海外旅行の減少は、「日本人の国際感覚の向上や国際相互理解の増進による諸外国との友好関係の深化（国土交通省HPから引用）」が損なわれる側面がある。日本人の内向き姿勢が強まると、長期的にみて経済への悪影響は大きい。今後、訪日外客数とともに、出国日本人数にも注目する必要があろう。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.